

【教育実践】

「自立した学習者」の育成をめざした算数科での単元内自由進度学習の取組

塩尻市立洗馬小学校 高田 斉弘

1 はじめに

本校の子どもたちには、「素直だが、受け身的で主体的な姿があまり見られない」という傾向がある。このような子どもたちが、少しでも主体的に学びに向かえるように、日々授業改善を続けていたが、思うような効果は得られていなかった。そのような中で、「自由進度学習」という言葉を耳にすることが最近増えた。以前からこの学習形態の存在は知っていたが、実践したことは無かったため、「自立した学習者」を育てるために効果的だと言われているこの学習形態を5年生の算数科の授業で試みることにした。

2 実践

(1) 初めての自由進度学習

1学期、「小数のかけ算」の単元終了後に、自由進度学習の学習方法やそのねらいを子どもたちに紹介した。そして、「どのようなタイプの問題でもできるように」ことをねらいとし、自由に計算練習に取り組む時間を試しに1時間だけ設けた。ドリルや教科書を中心に行う子とeライブラリを活用する子が同数いて、どの子も自分で選んだ教材に黙々と取り組んだ。同様のことを、次の「小数のわり算」の単元でも行った。子どもたちに自由進度学習の感想を聞いてみると、「やり方は分かったけれど、計算をしているだけで面白くなかった」という意見が少数あったものの、「いつもより自分のペースでできた」「たくさん問題に取り組むことができて、やり方も分かった」というプラスの意見の方が多く、自由進度学習を行ったことに手応えを感じた。

(2) 1回目の単元内自由進度学習(「整数」の単元)

① 1回目の単元内自由進度学習に向けての準備

夏休みに入り、「学びの改革ミニフォーラム」でお聞きした佐野亮子先生のお話の内容をふり返ったり、中信教育事務所の指導主事の両角穂先生から自由進度学習についてご指導を受けたり、様々な書籍(末尾に参考資料として掲載)を読んだりしながら、自由進度学習への理解を深めた。当初は、目の前にいる子どもたちに合う形で単元内自由進度学習を取り入れようと考えていたが、いざ本格的に取り組もうとすると、授業準備に思っていた以上に時間がかかること、私自身が授業をする中で一番楽しみにしている子どもたちとの問題解決に向けてのやり取りが減ってしまうこと等が気になってしまい、単元内自由進度学習を試したい気持ちとの折り合いがつかず、長期間に渡って、思い悩む日々を過ごした。2学期直前になって、「悩んでいても仕方がない」「やれば経験値が増える」「やらなければ見えないものがある」と自分自身に言い聞かせ、ようやく2学期最初の「整数」の単元での授業準備を始めることにした。近隣の学校では、知り合いでもある塩尻市立丘中学校の小川敦嗣先生が昨年度から単元内自由進度学習に取り組まれていた。そこで行われているような、自作の動画を作ったり学習の手引きを準備したりするといった大がかりなことは、仮に今後続けて行うことになったときに自分には続けられそうにないと思い、できるだけ準備に時間をかけず、子どもたちが自分で進められるものを準備しようと思った。そこで、解説、問題プリント、確認問題、自己調整課題等が既に準備されていて、子どもたちも日頃から使い慣れているeライブラリを主な教材として用いることにした。計画書には、最低限必

要だと思われる「めあて、学習内容、ふり返し」を入れた。めあての部分でループリッ
ク評価にするかB基準での評価にするかで迷ったが、「整数」の單元には、「偶数・奇
数」「倍数と公倍数」「約数と公約数」といった小單元があるため、B基準だけの方が
すっきりして子どもたちに分かりやすいと思い、B基準だけにした。計画書を作る中
で、必ず途中で改善しなければならないことが出てくると感じたため、計画書は以下
のように前半分（「偶数・奇数」「倍数と公倍数」）だけを作り、後半分（「約数と公約
数」）は前半の授業を進めながら、見つかった修正点を取り入れて作ることにした。

「整数」の単元で自由進度学習をやってみよう① 名前 _____

小單元	めあて
偶数・奇数	・偶数・奇数の意味を理解し、偶数か奇数か判別することができる。
	・整数を2つの仲間に分ける方法を考え、説明することができる
倍数と公倍数	・倍数や公倍数、最小公倍数の意味を理解し、それらを求めることができる。
	・公倍数の見つけ方を考え、説明することができる。

e ライブラリとプリントの2つを使って学習を進めます。

番号	e ライブラリの教材	プリントの教材	教科書のページ
①	(解説) 偶数と奇数		103
②	偶数と奇数(1)	偶数と奇数—1	103
③	偶数と奇数(2)	偶数と奇数—2	103
④	(解説) 倍数と公倍数		104
⑤	(解説) 公倍数の見つけ方		105
⑥	倍数	倍数と公倍数、最小公倍数(基本)—1	104
⑦	公倍数	倍数と公倍数、最小公倍数(基本)—2	105
⑧	最小公倍数(1)		105
⑨	最小公倍数(2)		105
⑩	3つの数の最小公倍数	倍数と公倍数、最小公倍数(標準)—1	106
⑪	倍数を使う問題	倍数と公倍数、最小公倍数(標準)—2	107

上の①～⑪を4時間でできるように、学習の計画を立てましょう。

算数のある日	取り組む番号 (修正は赤字)	ふり返し(+→)
8月27日(火)		
8月28日(水)		
8月29日(木)		
8月30日(金)		

⑪まで終わった人は確認問題を行い、さらに力をつけるための勉強をします！

②「整数」の単元前半(「偶数・奇数」「倍数と公倍数」)の取組の様子



子どもたちに授業中に活動できる場所(教室と少人数学習室)や実施方法などを伝えると、教室は個人で進める人、少人数学習室はグループや友達と相談しながら進める人というように自然とすみ分けが行われ、授業の時間になると、自分たちで計画書やタブレット等を手に、それぞれの場所へ移動して学習に取りかかる姿があった。しかし、取組直後から準備段階には気づけなかったことや配慮不足によるこちらの課題がたくさん出てきた。

【前半の取組から感じた課題と、後半に向けての改善方法】

- 取組内容を e ライブラリとプリントの教材をセットにして番号をつけたため、同じタイミングで両方に取り組まなければならないようになっていた。
→全ての教材を独立させ、子どもたちが取り組む時期を選択できるようにする。

番号	e ライブラリの教材	プリントの教材	教科書のページ
①	(解説) 偶数と奇数		103
②	偶数と奇数(1)	偶数と奇数-1	103
③	偶数と奇数(2)	偶数と奇数-2	103
④	(解説) 倍数と公倍数		104
⑤	(解説) 公倍数の見つけ方		105
⑥	倍数	倍数と公倍数、最小公倍数(基本)-1	104
⑦	公倍数	倍数と公倍数、最小公倍数(基本)-2	105
⑧	最小公倍数(1)		105
⑨	最小公倍数(2)		105
⑩	3つの数の最小公倍数	倍数と公倍数、最小公倍数(標準)-1	106
⑪	倍数を使う問題	倍数と公倍数、最小公倍数(標準)-2	107

上の①～⑪を4時間で行えるように、学習の計画を立てましょう。

- 理解に時間のかかる子やじっくり取り組みたい子にとっては問題量がとても多く、プリントの1と2が似たような内容にもかかわらず両方とも必修課題になっていた。
→必修課題になっている e ライブラリ教材の難易度を「基本」に設定し、難易度が高いもの(「標準」・「挑戦」)や内容が似ているプリントは必要に応じて取り組めるようにする。
- ふり返りを書く欄が小さく、子どもたちが書きたいことを欄の中に書ききることができない。
→計画書をA4サイズからA3サイズに変更し、子どもたちの書きこむスペースを広くする。
- めあてに対しての自己評価を記入する場所がない。
→めあての横に自己評価の項目を作る。
- 教材の中に単元の中で理解してほしい内容や身に付けてほしい考え方が書かれていても、それが理解できなかつたり身に付けられなかつたりする子がいる。
→子どもたちが取り組んでいる内容を確認し、一斉指導した方がよいことはタイミングを見て一斉指導するようにする。

- ▶ 子どもたちがその授業でどのようなことを意識して取り組むか、確認する機会がない。

→計画書にその日の「めあて」を書く欄を設け、授業の初めに確認できるようにする。

前半の取組から、改善すべきことがいろいろ出てきた。子どもたちに自由進度学習についてのアンケートをとると、30人中27人が「よかった(14人)」「まあまあよかった(13人)」と答えていて、9割の子は好意的に捉えていた。その理由の多くは、「自分のペースでできる」「分からない所を友だちに聞ける」という内容だった。また、「自分の力で解けるようになった」「計画的にできるようになった」と、自身の成長について書いているものもあった。「あまりよくなかった」と答えた3人は、その理由を「最後まで終わらせることができなかった」「選択する時に、当てずっぽうでやってしまった」「答えを見ながら書いてしまった」と書いていた。アンケート結果から、普段の一斉授業を進める中で子どもたちのペースに合わせたり友だちと相談する機会を多く設けたりしながら配慮しているつもりだったが、「もっと自分に合ったペースで取り組みたい」「もっと友だちと話しながら問題を解きたい」と考えている子どもたちが予想以上に多くいることが分かり、自分の授業で改善すべき点についても示唆された。

③「整数」の単元後半(「約数と公約数」)の取組

前半の反省を生かし、後半は以下のような計画書を作成して取り組んだ。

「整数」の単元で自由進度学習をやってみよう②

名前

小単元	めあて	ふり返りの時間にできるメーターをめろう!
約数・公約数	・約数や公約数、最大公約数の意味を理解し、それらを求めることができる。	0 50 100 <input style="width: 100%;" type="text"/>
	・公約数の見つけ方を考え、説明することができる。	0 50 100 <input style="width: 100%;" type="text"/>

下の表のように、教科書も参考にしながら e-ライブラリとプリントの2つを使って学習を進めます。
 e-ライブラリの①～⑩と、プリントの⑪⑫は、全員が全部やります。
 プrintの「約数と公約数、最大公約数(基本)―2」と「約数と公約数、最大公約数(標準)―2」は、復習用です。必要に応じて取り組ましましょう。

番号	e-ライブラリの教材	番号	プリントの教材	教科書のページ		
①	(解説) 約数と公約数	/		108 109		
②	(解説) 公約数のみつけ方			110		
③	約数(1)			108		
④	約数(2)			108		
⑤	公約数(1)			109		
⑥	公約数(2)			109		
⑦	最大公約数(1)			⑪	約数と公約数、最大公約数(基本)―1	108～110
⑧	最大公約数(2)			⑫	約数と公約数、最大公約数(標準)―1	108～110
⑨	3つの数の最大公約数			復習用	約数と公約数、最大公約数(基本)―2	110
⑩	約数を使う問題			復習用	約数と公約数、最大公約数(標準)―2	111

①～⑩が終わったら「偶数・奇数」「倍数・公倍数」「約数・公約数」の確認問題に挑戦してみよう!
 残念ながら確認問題でできない問題があった人は、できなかった問題の復習をしましょう。
 確認問題が全てできた人は、先生問題に挑戦しましょう。友達と協力しても良いです!

左の①～⑩を4時間で行えるように、学習の計画を立てましょう。

めあて	取り組む予定の番号 修正は赤字	ふり返り +には、「良かった学習方法」「自分で発見した解き方のポイント」 「友達に教えてもらった分かりやすいやり方」などを具体的に書こう!
9月3日(火)		+ - →
9月4日(水)		+ - →
9月5日(木)		+ - →
9月6日(金)		+ - →

単元全体のふり返りは、ロイノートの提出箱へ書きましょう。

【後半の取組から感じた事】

- ・ 前半の経験から、次々に教材を進めて必修課題を終わらせようとする子がたくさんいた一方で、もう一度解説を読んで理解を深めたり、eライブラリの問題のレベルを上げて定着させるために取り組んだりする子もいた。後半は、前半に比べて問題量が少なく、時間的にも気持ちの面でも余裕があったからだと思われる。
- ・ 必修課題を終えた子が挑戦する課題として、先生問題（チャレンジ問題）を用意したが、「友達と協力して解いても良いです！」と計画書にはっきりと明記したことで、協働的に取り組む姿が多く見られた。
- ・ 「めあて」や「ふり返し」を書く時間を毎時間設け、そのスペースも確保したが、毎回それを書くことが子どもたちにとってどのような効果があるのかは、この単元だけでは分からなかった。しかし、数学的な見方・考え方を働かせながら内容知や方法知などの内容も記述している子が増えた。子どもたちに一時間の学びを自覚させるためにも、ふり返しについては各教科の様々な場面でも指導をしていきたい。
- ・ 授業中に取り組めなかった問題や理解が不十分な問題を家庭学習（自主学習）で取り組みたい、と伝えてきた子がいた。授業と家庭学習をつなげるきっかけとして、このような主体的な姿を他の子どもにも広めていきたい。
- ・ 前半の取組では、おさえておきたいこと（例えば、公倍数は、最小公倍数の倍数になっていること等）があっても、子どもたちが自分達力で発見するまではと思い、最後まで待っていた。しかし、最後まで気づけない子が多く、その考えが全体に広がらなかったため、後半は子どもたちの様子を見ながら、一斉学習で要点を確認する機会を度々設けた。「約数は、ペアを意識して探す範囲を狭めながら求められる」ことを確認した際には、全体にもその良さを感じてもらおうと、このような求め方をしている子どもに黒板で説明しながら問題を解いてもらった。すると、一つずつ地道に割れる数を確認していた多くの子が、このやり方を取り入れていた。必要に応じての一斉指導は、やはり必要だと感じた。

④1回目の単元内自由進度学習（「整数」の単元）の学習を終えて

単元終了直後に感じたことは…

- ・ 予想以上に子どもたちは自由進度学習を好意的に受け止め、主体的に取り組んでいたということ。
- ・ 今までの一斉授業の進め方や授業中に行う個人追究や共同追究などのペース配分は、自己満足だったのかもしれないということ。
- ・ 今のクラスの子どもたちには、おさえるべき内容は初めに全体でおさえた方がよいかかもしれないということ。
- ・ 教科書をもっと大事に扱い、教科書で学べるようにしてあげたいということ。
- ・ 今の状態では、難解な問題を子どもたちだけで協働的に解決していくことは厳しそうだということ。
- ・ 準備の段階で学習の仕方が単線になっていることに気づけなかったため、個に応じた学習をさせてあげられなかったということ。
- ・ 子どもたちのモチベーションを上げるために、必修課題終了後に楽しみながら取り組める課題（チャレンジ問題）が用意してあることは、ちゃんと明記した

方がよかったということ。

- ・ 単元内自由進度学習に挑戦したことで、自分の授業の進め方全体についてもふり返ることができ、良かったということ。

後日、学習した内容の定着度を確認するために単元テストを行った。結果は、今までの単元テストの中で過去最低の平均点となってしまった。特に中間層の得点が軒並み低かった。「倍数・公倍数」と「約数・公約数」を別々に学習していた時には理解できていたものが、同時に出題された途端に混乱してしまったようだ。テスト後のふり返しには、「個別にプリントをやったり友だちと進めたりする中で、分かったつもりになっていることが多かった」といった内容を多くの子が書いていた。授業中に取り組んだ問題数は十分にあったので、定着しなかった理由としては、理解不足が考えられる。機械的に問題をこなしている状態で答えも合っていたため、子どもたち自身は理解していたと思いこんでいたと思われる。

テスト前に単元内自由進度学習についてのアンケートをとると、「またやりたい」と好意的に捉えている子が30人中25人いた。テスト結果を見た後の感想でも、「しっかりと理解してから進めたい」「友だちに教えてもらってばかりじゃなくて、自分でもできるだけ考えてやりたい」というように、自由進度学習の学び方については前向きなものが多かった。今回の反省を生かしながら、今後どこかの単元で単元内自由進度学習を再度行いたいと思った。

1回目の単元内自由進度学習を通して、この取組を行う前には感じたり考えられなかったりしたことをたくさん見つけることができた。特に、一斉授業を行う上でも注意しなければならないことや改善していきたいことが発見できたことは、自分自身の中でとても大きな成果だった。次の「分数」の単元では、一斉授業で進める予定なので、こちらの自己満足にならないように授業を進めていきたいと感じた。

(2) 2回目の単元内自由進度学習(「平均とその利用」の単元)

① 2回目の単元内自由進度学習の準備

子どもたちからの求めもあり、また子どもたちに「自分で学ぶ力」をつけてほしいという私の願いもあり、2回目の単元内自由進度学習を「平均とその利用」の単元で行うことにした。授業準備は基本的に1回目の後半と同様に行ったが、次の3点については、1回目後半の計画書から改善を行った。

- 子どもたちが意欲をもって主体的に学習に取り組めるように、必ず取り組まなければならない必修課題を無くし、自分の理解度に応じてチェック問題(1回目の確認問題と役割は同じ)に取り組み、それに合格することを目的に学習を進めるようにした。
- 普段の生活や学習の様子から、解説等を「読む」よりも「聞く」ことにより理解を深められる子どもたちがいると感じたため、教科書とeライブラリに加えて、短時間での動画解説が準備されている「eboard」を教材に加えた。
- チャレンジ問題が子どもたちのやる気向上につながるように、問題の内容を具体的に計画書に示して挑戦状的な書き方にしたり、一つでも興味がわくものがあればと願って4つの問題を用意したりした。

そして、次のように計画書を作成した。

自分の力で目標が達成できるように

「平均とその利用」の単元で自由進度学習をやってみよう!

名前

単元の目標 (下の2つのことができるようになるう!)	チェック問題に合格したら □にチェックをしよう!
・ 平均の意味や求め方を理解し、平均を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 合格できた!!
・ 部分の平均から、全体の量を見積もったり平均を求めたりすることができる。	<input type="checkbox"/> 合格できた!!

- ・ 今回の自由進度学習では、教科書、e ライブラリ、eboard (いーぼーど) を使って学習を進めます。
- ・ 今までのように全員が絶対やるものの指定はしません。自分に合った教材を選んで取り組みましょう。
- ・ 目標に書いてあることができるようになってきたと感じたら、チェック問題を受けましょう。
- ・ チェック問題を2つ合格したら、この単元の復習をしたりチャレンジ問題に取り組んだりしましょう。
- ・ チャレンジ問題について分からないことがあれば、先生に声をかけてください。やり方を説明します。

単元の目標	教科書	e ライブラリ	eboard (いーぼーど)
平均の意味や求め方を理解し、平均を求めることができる。	157~159	平均の解説 平均 (1) 平均 (2)	平均の解説 問題 1~3 平均を求める練習の解説 問題 1~7
部分の平均から、全体の量や平均を求めることができる。	160~161	平均を使った問題の解説 平均 (3)	平均から数を求める解説 問題 1~2
チャレンジ問題①	教科書 (P162) を参考にしながら自分の歩幅を測って、校庭のトラック1周分の長さを測ってみよう! 誰が一番正確に測れるかな?		
チャレンジ問題②	ちょっと違った方法で平均を求めてみました。この考え方を説明することができるかな?		
チャレンジ問題③	どうしてこっこの学校の平均点の方が高いの? このからくり、分かるかな??		
チャレンジ問題④	平均を使ったお話作りをしてみよう! どんなお話ができるかな?		

それでは、2つの目標が達成できるように、4時間分の計画を立てましょう!

日付 その日に取り組みたいこと	ふり返り
1時間目 月 日	+ (良かったところ・新しく分かった事など) - (うまくいかなかったところ・よく分からなかった事など) → (次回の学習において思った事・考えた事)
2時間目 月 日	+ - →
3時間目 月 日	+ - →
4時間目 月 日	+ - →

単元全体のふり返りは、ロイロの提出箱へ提出してもらいます。

②2回目の単元内自由進度学習の取組の様子

2回目の取組なので、子どもたちは1回目の経験を生かして自分に合った学習計画を立てたり学習方法を選択したりしながら学習を進めていた。主に、次のような様子が見られた。

- ・ 新しく加えた eboard で解説を聞きながら理解を深める子もいて、教材を加えた効果を感じられた。(周囲に音が聞こえないように、年度当初に外国語の授業で一人一つ購入したヘッドセットを利用した。)
- ・ 1回目の取組や普段の学習の中で、友だちに教えることで自分の理解が深められると感じている子は、計画段階で友達に教える時間を設け、自分から困っている子に声をかけている姿があった。
- ・ 理解の速い子どもたちの中には、チェック問題に早目に合格するように計画を立て、チャレンジ問題に挑戦することを楽しむ姿があった。特に、自分の歩幅を使って校庭のトラック1周分の長さを測る問題では、より正確な値を出すために何回も歩いて自分の歩幅を計測したりトラックを何周もしたりして平均を出す姿があり、回数を増やすことで正確な値に近づくことを体験を通して理解していた。
- ・ 文章を書くことは好きだが算数の学習に苦手意識をもっている子が、平均を使ったお話作り(チャレンジ問題のうちの一つ)に取り組むために、チェック問題に意欲的に取り組む姿が見られ、チャレンジ問題が子どもたちの意欲向上に役立つことを実感した。



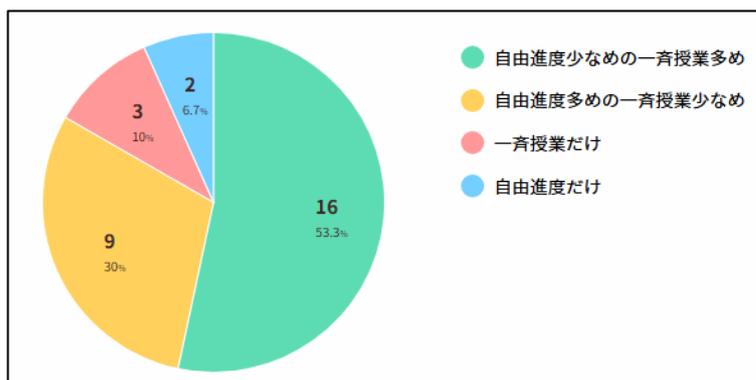
- ・ 平均が「合計÷個数」で求められることが分かったとしても、小数のわり算の計算ができなかったり概数で求められなかったりするといった、計算力に課題のある子や、gをkgにしたりcmをmにしたりする場面で単位換算ができない子が多く見られ、自主学習の中で既習内容を復習する声かけが必要だと感じた。
- ・ チェック問題は自分の力だけで取り組むことにしたが、何度でも挑戦できる形だったので、合格できなかったらどうしようという不安な気持ちは少なく、安心感をもって取り組むことができていた。
- ・ 4時間で行う短い単元だったので、チャレンジ問題に十分に時間をかけることができなかつた子もいたが、全員チェック問題に合格することはできた。
- ・ 部分の平均をもとに全体の平均を求める問題の理解が不足している子が多かったため、この問題については、自由進度学習終了後に一斉指導で扱った。やはり、子どもたちに任せる部分と教師の指導が必要な部分の判断は、子どもたちの様子を見ながら判断していく必要はあると感じた。
- ・ 単元終了後に行った単元テストの平均点は、今までの単元の平均点とほぼ同じだったが、1回目同様に中間層の点数がやや低かった。これは、解説文を読んだり問題解説を聞いたりする際の理解力の不足や、少し複雑な問題になると問題文の内容を正しく読み取れていないこととつながっていると思われる。読解力の不足は、算数の授業だけでなく学校生活全体で感じるところが多いため、全ての学習場面で機会をとらえて補っていく必要がある。

③2回目の単元内自由進度学習の取組を終えて

2回目の課題としては、次のようなことが挙げられる。

- ・ チェック問題の精選（問う内容が同じ問題があった）
- ・ 教科書のよりよい利用（問題の配置等を理解していない子がいる）
- ・ 計画書の様式（計画を立てたりめあてを書いたりする欄の確保）
- ・ 適切な時数の設定（チャレンジ問題への取組時間の確保）

単元終了後のアンケートでは、自由進度学習に対して、「よかった」が10人、「まあまあよかった」が14人、「あまりよくなかった」が6人と、8割の子は自由進度学習を肯定的に受け止めていたが、2割の子は否定的だった。肯定的な子の理由としては、一回目と同様の自分のペースや自分に合った学習方法という意見に加え、「一回目よりも計画的に進められた」「前より自分の力で問題を解くことができた」「分からない所があっても友達に聞いた」と、一回目から成長したことについて書いてあるものもあった。否定的だった子の意見としては、「自分でポイントをつかむことができなかつた」「一斉授業の時よりも解く時のポイントが分からない問題が多かつた」といった、一斉授業の時に大切にしている、数学的な見方・考え方の獲得が十分にできなかつたことを理由にしていた。そして、今後望む授業形態としては、下のグラフのように、「自由進度学習少なめの一斉授業多め」が16人、「自由進度学習多めの一斉授業少なめ」が9人、「一斉授業だけ」が3人、「自由進度学習だけ」が2人だった。（「自由進度と一斉授業を同じくらい」という項目を入れると、それを選択する子どもたちが多くなると思い、それはあえて外した。）回答理由からは、自分のペースで学べる自



由進度学習と、クラス全体で協力しながら課題を解決していく一斉授業での学び方それぞれに魅力を感じている子どもたちが多くいることが分かった。

(4) 2回の単元内自由進度学習を通して見えてきたこと

「自由進度学習は、『個別最適な学び』を行うための一つ的手段であり、目的ではない」ということがよく言われる。そのことは、十分に分かっているつもりでいた。しかし、いざ実際に取り組んでみると、子どもたちを自分で学べるようにしていくことに意識が向いてしまい、単元のねらいを達成させるという本来の目的を疎かにしている部分があった。一斉授業であれば、その単元で押さえるポイント等を把握して授業に位置付けているが、自由進度学習では教材を準備し終えた後にそれが薄れてしまう傾向にあった。「自由進度学習を目的にしない」ということは、今後実践する中で特に注意をしていきたいと感じた。

それでも、2回の実践を通して、子どもたちは主体的に学習に取り組む姿を以前より多く見せてくれた。特に、「知識技能の獲得や定着の場面」にそれが顕著で、単元のねらいを達成させるために自ら学習方法を選択して黙々と取り組んだり、協働的に学んだりする姿が多かった。このことだけでも単元内自由進度学習を行った成果は十分にあった。しかし、「自立した学習者」を育成するためには、自由進度学習をこのまま続けられればよいというわけではないことも痛切に感じた。今回の取組から目の前にいる子どもたちに「自分で学ぶ力」をつけるために欠かせないこととして、以下の3点がはっきりした。どれも一朝一夕で身につくことではないため、引き続き根気よく指導をしていきたい。

- ① 解説文を読み、その内容を正しく理解できるように読解力をつける指導を行う。
- ② 教科書で学習が進められるように、教科書の使い方を伝え体験させる。
- ③ 復習が必要な時の対処方法を体験させ、自分に合う方法を理解させる。

以下は、2回目の自由進度学習後に子どもたちが書いた、今後望む授業形態についての意見である。

- ☆ 自由進度は自分のペースで勉強を進められて、分からない所は友達に聞けたり一緒にできたりする。一斉授業の方が分かりやすいけど、ノートにメモしたことはすぐに忘れてしまう。だから、自由進度が多めの方がいい。
- ☆ 一斉授業だと自分のペースで出来ないけれど、自由進度だと自分のペースでできるから、自由進度をたくさんやりたい。
- ☆ 単元によって、自由進度の方がいいとか一斉授業の方がいいなど言うのがあるので、その時によって違う。
- ☆ 一斉授業の方が、他の人の色々な意見が聞けて、もっと賢くなれる。
- ☆ 一斉授業でポイントを掴んでから、自由進度で復習をしたい。
- ☆ 自由進度だけだと分からないところが多いから、一斉授業もして、自由進度で苦手なところを復習するのが一番いいと思う。
- ☆ 一斉授業は分かりやすくいいけど、少し自由進度を入れないと自分で勉強する力が育たないと思う。

子どもたちによって様々な意見はあるが、私同様に子どもたちも「一概にどちらか一方が良いということではなく、どちらにも良さがある」ことを理解している。そして、学ぶことに対して前向きなことが分かる。子どもたちが「自立した学習者」

として育っていくために、この「学びへの意欲」は欠かせない。そのため、今後も子どもたちの思いや考えを尊重しながら、今回学んだ自由進度学習と一斉授業それぞれの良さをバランスよく取り入れて単元構想をし、目の前の子どもたちに合った授業づくりを続けたい。そして、子どもたちが「自立した学習者」になれるように、私自身が率先して授業という学びの場を楽しみたいと思う。

【参考資料】

- ・奈須正裕・伏木久始、『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して』,北大路書房,2023年
- ・葛原翔太、『「けテぶれ」授業革命！子ども自身が学びを進める授業のつくりかた』,学陽書房,2023年
- ・難波駿、『超具体！自由進度学習はじめの1歩』,東洋館出版社,2023年
- ・加固希支男、『「個別最適な学び」を実現する算数授業のつくり方』,明治図書,2022年
- ・竹内淑子、『新装版 教科の一人学び「自由進度学習」の考え方・進め方』,黎明書房,2022年
- ・蓑手章吾、『子どもが自ら学び出す！自由進度学習のはじめかた』,学陽書房,2021年
- ・奈須正裕、『個別最適な学びと協働的な学び』,東洋館出版社,2021年
- ・葛原翔太、『「けテぶれ」宿題革命！子どもが自立した学習者になる！』,学陽書房,2019年